

3 新登録患者の活動性分類・年次別推移

- 入院が必要となる喀痰塗抹陽性者数は年々減少傾向にあったなか、平成22年に一時増加したが、その後はまた減少傾向にある。

(人)

年次	総数	喀痰塗抹陽性			その他の 結核菌陽性	菌陰性 その他	肺外結核 活動性	(別掲) マル初	(別掲) 非定型抗酸菌 (非結核性抗酸菌) 陽性
		計	初回治療	再治療					
平成17年	389	173	147	26	75	55	86	25	43
平成18年	361	130	112	18	70	75	86	24	11
平成19年	350	132	116	16	58	47	113	(別掲)潜在性結核感染症 治療中	
									9
平成20年	344	130	125	5	70	46	98		36
平成21年	337	109	105	4	84	48	96		33
平成22年	307	119	115	4	64	40	84		52
平成23年	329	118	111	7	76	41	94		90
平成24年	289	110	103	7	71	24	84		158
平成25年	277	104	100	4	59	18	96		78
平成26年	281	100	91	9	67	33	81		95

※平成19年に結核予防法が感染症法に統合されたことに伴い、非定型抗酸菌(非結核性抗酸菌)その他の非結核性のもは感染症法の適用はなくなったが、潜在性結核感染症が届出の対象となった。

4 新登録患者の活動性分類・年齢別内訳

- 新登録患者のうち1/3以上が入院が必要である喀痰塗抹陽性であり、そのうち70歳以上が82パーセントを占める。

(人)

年齢 (歳)	総数	活動性肺結核						肺外結核 活動性	(別掲) 潜在性結核感染症
		喀痰塗抹陽性			その他の 結核菌陽性	菌陰性 その他			
		計	初回治療	再治療					
0～4	0	0	0	0	0	0	0	2	
5～9	0	0	0	0	0	0	0	1	
10～14	0	0	0	0	0	0	0	0	
15～19	0	0	0	0	0	0	0	1	
20～29	9	1	1	0	2	3	3	12	
30～39	9	2	1	1	1	4	2	9	
40～49	10	1	1	0	4	3	2	18	
50～59	15	5	5	0	1	5	4	22	
60～69	30	9	8	1	9	3	9	16	
70以上	208	82	75	7	50	15	61	14	
計	281	100	91	9	67	33	81	95	